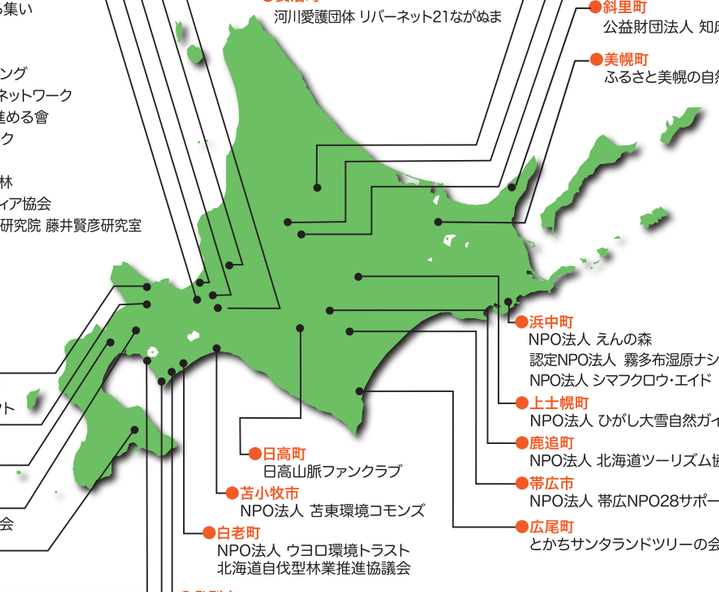
ネットワーク

KITA-NET Network

北海道に広げていこう、環境のネットワーク

KITANET Network 2019年7月現在
会員数
MEMBER
正会員
58団体・18個人
賛助会員
54個人
16企業・団体



- **札幌市**
  旭山記念公園市民活動協議会
  旭山森と人の会
  NPO法人 あそべンチャースクール
  石狩川流域・湿地・水辺・海岸ネットワーク
  NPO法人 ezorock
  NPO法人 EnVision環境保全事務所
  間伐ボランティア「札幌ウッディーズ」
  (公社)札幌消費者協会 北海道エゾシカ倶楽部
  自然ウオッチングセンター
  NPO法人 新山川草木を育てる集い
  手稲さと川探検隊
  NPO法人 西区ホタルの会
  NPO法人 八剣山エコケータリング
  北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク
  NPO法人 北海道海濱美化を進める會
  北海道グリーン購入ネットワーク
  北海道高山植物保護ネット
  (一財)北海道札幌南高等学校林
  NPO法人 北海道森林ボランティア協会
  北海道大学大学院 地球環境科学研究院 藤井賢彦研究室
  北海道林業技士会
  真駒内川水辺の楽校
  山のトイレを考える会
  NPO法人 景観ネットワーク
- **石狩市**
  NPO法人 いしかり海辺ファンクラブ
  いしかり森林ボランティア「クマゲラ」
- **江別市**
  野幌森クラブ
  酪農学園大学 環境GIS研究室
  酪農学園大学 環境法研究室
  ヒグマの会
- **当別町**
  当別森林ボランティア「シラカンバ」
- **長沼町**
  河川愛護団体 リバーネット21ながぬま
- **下川町**
  NPO法人 森の生活
- **旭川市**
  NPO法人 緑の探検隊
  NPO法人 もりねっと北海道
- **東川町**
  NPO法人 大雪山自然学校
- **斜里町**
  公益財団法人 知床財団
- **美幌町**
  ふるさと美幌の自然と語る会
- **浜中町**
  NPO法人 えんの森
  認定NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト
  NPO法人 シマフクロウ・エイド
- **上士幌町**
  NPO法人 ひがし大雪自然ガイドセンター
- **鹿追町**
  NPO法人 北海道ツーリズム協会
- **帯広市**
  NPO法人 帯広NPO28サポートセンター
- **広尾町**
  とかちサンタランドツリーの会
- **余市町**
  NPO法人 北海道エコビレッジ推進プロジェクト
- **仁木町**
  冷水峠森づくりの会
- **黒松内町**
  黒松内ぶなの森自然学校
- **ニセコ町**
  尻別川の未来を考えるオビラメの会
- **七飯町**
  大沼流山森づくりネットワーク
- **洞爺湖町**
  UWクリーンレイク洞爺湖
- **日高町**
  日高山脈ファンクラブ
- **苫小牧市**
  NPO法人 苫東環境コモンズ
- **白老町**
  NPO法人 ウヨロ環境トラスト
  北海道自伐型林業推進協議会
- **登別市**
  NPO法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
- **室蘭市**
  NPO法人 河川環境センター知利別川を愛する会
- **東京都**
  (一財)セブン-イレブン記念財団

きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体

公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 / 網走市廃棄物処理協同組合 / エムフォトワークス株式会社 / 五島冷熱株式会社 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部 株式会社地域環境計画北海道支社 / DCM ホーマック株式会社 / 株式会社トゥリー / パタゴニア札幌北・パタゴニアアウトレット札幌南 / 株式会社プリプレス・センター / 北海道自動車処理協同組合 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社 /

きたネットの活動にご寄付・ご協賛をいただいたみなさまです。ありがとうございました。(順不同)

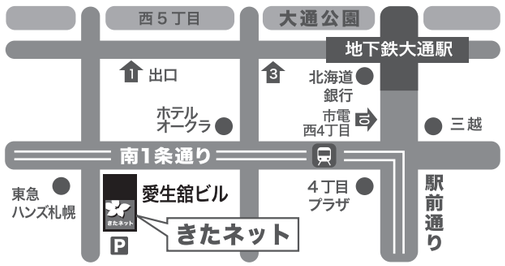
寄付・協賛(2019年4月~6月)

一般社団法人札幌空調衛生工事業協会、株式会社 北翔、山本建設株式会社、川正染工株式会社、北日本測地株式会社、株式会社 櫻井千田、株式会社 GV 北海道支部、石上車輌株式会社、ハッピーブレインクラブ北海道、フォレストクリエイトタック /TACK、札建工業株式会社、親切会 北海道支部、株式会社宅建、株式会社オール、株式会社セクト、株式会社カンリ、株式会社リロケーションサービス

【NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】
〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生舘ビル5F
Tel 011-215-0148
Fax 011-215-0149
E-mail office@kitanet.org

一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。



vol.08 きたネットニュース KITA-NET NEWS 2019/08

きたネットWeb http://www.kitanet.org/
きたマップ http://kitamap.net
環境情報Blog http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff
きたネットFacebook https://www.facebook.com/kitanet.org
ラブアース・クリーンアップin北海道 http://www.love-earth-hokkaido.jp

NPO法人
北海道市民環境ネットワーク
「きたネット」

北海道の環境保全活動を推進・支援する団体・個人・企業が参加するネットワークです。

メッセージ

MESSAGE

6月に2019年の通常総会が無事終了し、新しい年度の活動がはじまりました。
きたネットのイベントに参加してくださる方の顔ぶれが多彩・多様になってきています。
産官学民、年齢のバランスもたいへん良く、学生や女性の参加者も増えています。
きたネットの活動が交流や情報交換の場となり、
横のつながりを活かした活動や事業が生まれていくことを願って、今年も活動していきます。
みなさま、ご協力ご支援をどうぞよろしくお願いします。

コラム

COLUMN

「きたマップ」は、
目的の実現のために、何をなすべきか、その示唆を与えてくれます。

きたネット理事長
金子 正美 (酪農学園大学 教授)

新しい時代「令和」が始まりました。といっても、世界(もちろん日本も)では西暦2019年、イスラム諸国では1440年です。日本を基準に考えれば令和元年ですが、国が変われば見方も変わります。世界はそれぞれの多様な歴史、文化の中で動いています。

きたネットも、日本の中の北海道ではなく、世界の中の北海道を考えながら、多様性を尊重したネットワーク、パートナーシップを構築していくことが大切と考えています。

そのような考え方のもと、世界標準の仕組みで開発を進めたのが「きたマップ」です。

きたネットが、公益財団法人自然保護助成基金から助成を受け開発したインターネットを使った環境保全活動の情報公開システムです。

自然保護助成基金には、2019年4月、基金設立25周年の記念行事として、「きたマップ」をテーマとした公開記念シンポジウムを開催していただきました。また、2019年の特定テーマ助成として、「きたマップ」を活用、あるいは「きたマップ」に新たにデータを追加する活動に対して助成する特別なプログラムも作っていただき、今後、北海道の環境情報のプラットフォームとしての役割を期待されているところです。

さて、きたマップは、地図をベースとして開発を行いましたが、なぜ「地図」なのでしょうか?

地図は、情報を客観的にビジュアルに伝達することができる素晴らしい媒体である一方、2次元あるいは3次元の情報であるため、言葉だけで他者へ伝えることがとても難しい情報です。これは、絵画や彫刻といった芸術作品の素晴らしさを言葉のみで伝えることができないのと同じです。きたマップでは、この伝達することが難しい情報を、インターネットと地理情報システムを使って伝達することを実現しています。

この情報伝達の仕組みは、地域と地球をつなぐコミュニケーションツールとなります。これは、国連が定めた、2030年までの世界の目標、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するうえでも、とても重要な仕組みとなります。

昔、インド独立の父といわれるマハトマ・ガンジーは、「未来は、今、我々が何を為すかにかかっている」と述べました。

「きたマップ」は、単に情報を取得するものだけではなく、私たちが、目的の実現のために、何をなすべきか、その示唆を与えてくれるものです。全ての市民環境活動のベースとして、そして、交流推進と北海道の環境保全、ひいては、地球環境の保全に寄与することを願っています。

きたマップ(http://kitamap.net/)

INFORMATION

インフォメーション

2019通常総会(6/22)において役員を改選しました。以下の体制で運営していきます。

理事長	金子 正美		
副理事長	枝澤 則行	川口 弘高	
理　事	秋山 孝二	麻生 翼	植田 英隆
	内山 到	草野 竹史	鈴木 玲
	東田 秀美	星 劭	宮本 尚
監　事	高橋 忠義	上野 雅樹	

きたネット ニュース

きたネットセミナー

市民活動の「やる気スイッチ」はどこにあるの?

【6/22 2019年度通常総会同日行事】

講師　北海道大学大学院農学研究院 准教授　愛甲 哲也 さん

大学時代に大雪山で山岳トイレ問題に気づき、登山者やガイドの方たちと「山のトイレを考える会」を設立。山岳トイレは整備すればおわり、というものではありません。活動費用と組織の維持、利用者や自治体との連携など、総合的な対策としくみ作りのむずかしさを痛感したそうです。会の活動を続けていく中、活動が認められようになって、継続しなければ、と義務感が出てきた一方で、活動と家族や研究(仕事)とのバランスや、活動仲間間の意見の不一致で悩むこともあったそうです。

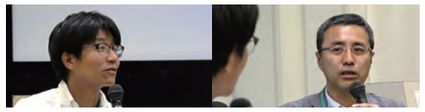
大雪山では、登山道整備が進んだ一方、トイレの老巧化も進み、維持管理者がいない区間もあるのが現状です。ボランティア頼みだけの活動には限界がきていることを説明されました。

アメリカのアディロンダック山岳会は1922年設立の会員数16,000世帯のNPOです。ニューヨーク州立公園でロッジ等の運営、登山道整備、イベント等、ボランティアの機会を提供しており、自分のペースで無理のない日時・場所で、作業できるしくみを整えています。

ボランティア活動に参加したきっかけを調査すると、自然観察や登山などに参加して、場所や団体の魅力にふれ、その交流の中から社会貢献活動に関心をもち、必要とされる体験から愛着が芽生え、さらに楽しく、より深い関わりにつながっていくとのことです。

まずは、参加者が楽しんで学ぶ機会を設け、「必要とされている」という感覚がもてるよう、コーディネーターと管理者が連携して取り組むことが大事、というアドバイスをいただきました。

対談　愛甲 哲也 さん
× 草野 竹史 さん（NPO法人ezorock代表）



SNS等情報収集のツールが変化する中、最近は海洋のプラスチックごみ問題やSDGsなど環境問題への若者の関心の高まりを感じている、とお二人。

草野さんは中学時代、ポイ捨てのごみが野生動物を傷つけていることに罪悪感を感じ、はじめて環境問題を考えたそうです。

ロックフェスティバルのごみ分別活動に関わる中、先輩から、ごみを捨てる側が変わらない限り変革しないと聴き、ポイ捨ては罰するくらいの尖った気持ちが、責めずに話を聞き、どうしたら巻き込めるかを考えられるように変わりました。若い世代に情報が届くよう、チラシを漫画喫茶などに置いたりして新規開拓、無関心層の掘り起こしも実践しています。プロジェクトの一つ「ボラ旅北海道」は若い人を、地域、企業、行政、活動団体とをつなぐしくみ。つながりのストーリーの入口は人により違い、どこにキッカケがあるかわからない、と述べられました。

受入側の配慮として、男だから女だから、若いとか、先入観で役割を押しつけず、一人一人の選択の自由を奪わないこと。そしてイベント当日だけではなく一番面白い企画段階から参加を促し、単純作業にならないプログラムづくりが必要ということで対談を締めくくりました。

●きたネットのネットワークに参加しませんか。　会員は以下の2種類です
1. 正会員(市民環境活動団体・個人)年会費5,000円(1口)～総会における議決権を有します。
2-1.賛助会員(企業・団体)年会費10,000円(1口)～総会における議決権は有りません。
2-2.賛助会員(個人)年会費2,000円(1口)～総会における議決権は有りません。

●会員になると…各種連携事業の実施、広報協力、会員間の交流・活動発表の場の提供、イベント参加費等の会員料金適用、きたネットMLへの参加、各種環境情報の提供など。詳細は事務局にお問合わせください。

会員活動紹介

総会同日行事として
4団体に活動紹介をしていただきました。

石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク／鈴木 玲さん

約100年前、かつて石狩には55,000haの広大な湿地がありました。この豊かな生態系と素晴らしい自然は、明治後期の開拓以降、人間の活動により、都市や田舎に姿を変えられてしまいました。現在湿地はほとんど残っておらず、かつての0.1%以下になってしまったそうです。石狩川流域に残された湿地の自然環境と文化を未来に残すためのネットワークをつくり、持続的な活用を推進し、湿地と人が一緒に生活できる流域社会づくりを目指しますという、力強い発言がありました。

ヒグマの会／山本 牧さん

ヒグマとはどんな生き物か?植物を中心とした雑食で、頭が良い動物です。事故はクマの興奮や過剰な防衛で発生します。クマ撃ちが高齢化で減り、ヒトを怖がらない新世代のクマが、あまり警戒せずに人里に出て作物荒らしを起こしています。若グマ放浪(野幌)、雄グマ繁殖行動(利尻)、雌グマ定着(札幌)の3段階で拡大しているそうです。これ以上、問題を起こすクマを増やさないように、地域社会で対応、ヒトにもクマにも教育が重要ということです。

野幌森クラブ／尾崎 脩さん

野幌森林公園は人に削られ、人に守られた人工林です。広い森には野生生物が多種いて、人々がそれを実感でき、子々孫々まで残っていてほしい、「共生の森」を目指しています。現在は、森の再生(のぽぽの森)、森一周ウォーキング(市民との交流&自然観察)、報告会・セミナー(市民との交流&啓蒙活動)を実施しています。課題は高齢化による会員減。公園利用者が加害者・破壊者にならないよう、協議会等を設置して、利用者の取組み、共有、活動成果の「一般化」「見える化」が必要と考えている。きたマップに役割を担ってほしい、という要望をいただきました。

UWクリーンレイク洞爺湖／室田欣弘さん

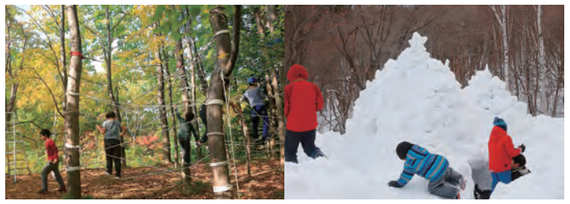
2005年NHKが有珠山噴火後の洞爺湖を水中撮影した際に発見した、外来種のウチダザリガニと、湖底のごみが活動のきっかけだったそうです。

ウチダザリガニの捕獲数は行政主導体制では増えているがボランティアベースの事業成果は減っています。参加者減少が課題だということです。

今後は、漁獲の被害等、影響とリスクを考え、ウチダザリガニを絶対入れないエリアを決めるのか、捕獲し続けるのか、根絶を目指し科学的に防除を行うのか、「目標の決定」を行い、活動の担保などをクリアしながら、少子化・人口の流出による参加者の減少などを変えるしくみ作りを実施していきたいというお話でした。

きたネット会員

KITA-NET MEMBERS



旭山記念公園市民活動協議会

都心に最も近い森から、自然の魅力を発信

旭山公園キッズ、旭山自然調査隊、旭山森と人の会、札幌太陽中央子ども劇場、札幌まるやま自然学校。旭山記念公園と札幌市旭山都市環境林で活動する5つの団体が集まり、札幌市と指定管理者との協働で、子どもから大人まで、自然と親しみながら安全に楽しく活動することを考えています。

普段の活動の他に、協議会主催のイベントも年に4回行っています。①星空観察会(6月～10月に1度)、札幌市青少年科学館の移動天文車とスタッフをお招きしての夜空の観察会 ②旭山森のフェスティバル(10月)協議会の団体が一同に介し、森遊び、自然観察会、自然素材のクラフトなど、秋の1日を森と親しみ森と遊ぶイベント ③スノーキャンドル(1月)阪神淡路大震災で犠牲になられた方への追悼と復興を祈念して行われたのがはじまり。参加者手作りのスノーキャンドルを旭山に灯す夜です。④旭山冬のフェスティバル(2月)冬の公園利用促進を考えるイベントとしてスタートし、気がつけばもう10年。イグルー作り、スノーシュー自然観察会、そり滑りなどで冬の1日を楽しみます。

札幌の中心部から車で15分。クマゲラも見られる「都心に最も近い森」、旭山から、自然の魅力をいろいろな角度から発信しています。

【電話】011-531-7330
【HP】http://asahiyamamoritohitonokai.naturum.ne.jp

大沼流山森づくりネットワーク

森の恵みを利用した森の暮らしを目指しています。

主に、大沼国定公園に隣接する北海道旅客鉄道株式会社の元ゴルフ場開発予定地で、2013年から活動しています。林相は、ミズナラ二次林、カラマツ人工林が優占し、その他はハンノキ湿地林などです。

活動は、主に森林整備、林産物・特用林産物の利用、空間利用をしています。

【森林整備】長年手入れされていなかった森で、遊歩道の草刈りや混み合った森での間伐から手入れを始めました。同じ敷地内に馬の牧場があるので、伐採した木は、馬の力に頼って丸太を搬出するホースロギングという手法を主に用いています。小回りが効き、重機よりも作業する人が疲れにくく、広い森で少しずつ伐採する私たちの活動にとても適しています。

【林産物・特用林産物の利用】搬出した丸太は、薪やしいたけのほだ木として利用したり、チップ用として丸太を販売したこともあります。2016年からは、メープルシロップの原料として、カエデの樹液を採取し始めました。シラカバの樹液も採取しているのですが、利用方法はまだまだ課題が残っています。

【空間利用】地元の幼稚園の伐採体験やホースロギング見学、森づくり体験プログラムの実施、木育フェスタの実施などをしています。

【電話】0138-67-3339
【Facebbook】大沼流山森づくりネットワーク

ラブアース・クリーンアップin北海道2019

～私たちの北海道を私たちの手で、世界一きれいな場所にしよう!～

【3/30オープニング!ごみ拾い】

2019年度キックオフイベント。まだ雪が残る肌寒い日でしたが、参加者10名で2時間ほどをかけ、大通公園から中島公園までの歩道のごみを拾いました。ごみの収集量は約17kg。植え込みに薬のパックが大量にありました。街中をきれいにしながら、通りすがりの人にも「ごみを捨てないで」というメッセージを届けながら活動しました。

【6/2ごみ拾いビーチウォーク】

今年で10回目になる、石狩浜での安全できれいな海を守るためのメインイベント。相変わらず漂着物やポイ捨てされたごみ、レジャーの放置ごみ、不法投棄などが散乱していました。石狩浜は、漂着ごみが集まりやすい海岸です。札幌市民のごみも川を通じて漂着しています。漂着物が海や野生動物、海浜植物に及ぼす影響を知ってもらう機会につなげることができました。

今年の参加者は613名。ごみの収集量は一般廃棄物6900kg、処理困難物600kgとタイヤやテレビなど。

共 催 NPO法人北海道海浜美化を進める会、NPO法人ezorock
協 力 石狩市、北海学園大学P-コネクション、NPO法人いしかり海辺ファンクラブ
協 働 「#Trashtagチャレンジ」/北大トラッシュタグチャレンジチーム、「海ごみゼロウィーク」/CHANGE FOR THE BLUEプロジェクト

※本活動は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、一般財団法人石狩川振興財団から助成金をいただき、運営しています

News

■ **北海紙管株式会社「ほっかいもっかい杯 スポGOMI大会in札幌」** https://www.hokkai-s.co.jp/spogomi/
「スポーツで、街をキレイにする!」チームワークでごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合います。今年は9月7日(土)アリオ札幌エントツ広場で開催。参加者募集中!

■ **北"海"道530(ゴミゼロ)プロジェクト大作戦!実行委員会「海ごみゼロウィーク」** https://uminohi.jp/umigomi/zeroweek/
「これ以上、海にごみを出さない」日本全体が連帯し、海洋ごみ削減のためのアクションを一斉に行っています。清掃活動の参加登録受付中!

■ 石狩で活動する会員のみなさん・スタッフが中心となってたちあげた、**「テオのビーストを石狩浜の風の中へ」実行委員会主催イベント**
札幌芸術の森美術館で開催されている、「テオ・ヤンセン展」(7/13~9/1)連動企画として、テオ・ヤンセンさんのビーストを石狩浜に呼ぶイベントを開催しました。
FB https://www.facebook.com/2295951893989223/
HP https://kmizob.wixsite.com/ishikari-theo